大学の女子力

海外企業へ広がる研究者の夢

大阪樟蔭女子大②　学芸学部客員研究員　岡坂真奈さん（25）

大阪樟蔭女子大学学芸学部の客員研究員、岡坂真奈さん（25）には海外企業研究員というもう一つの顔がある。同大人間科学研究科で化粧ファッション学を専攻した大学院時代、シャンプーなどに含まれる界面活性剤と皮膚のバリア機能の関係を調べた研究成果が中国の化粧品会社の目にとまったのがきっかけだ。

化粧品研究の指導を請われ、今年4月に入社。定期的に現地の同社を訪れ、基礎研究に協力する。大学では、大学院時代の研究をさらに深化させるのが大きな目標だ。「初めての体験ばかりですが、自分の可能性を広げたい」と意気込む。

◎　◎

美容室を経営する祖母や母親の姿を間近に見て育ち、「女性を笑顔にできる」と自分も美容師を志した。専門学校への進学を考えていた高校3年の時、同大学芸学部被服学科（現・化粧ファッション学科）に4年制大学では珍しい美容師を養成する美容コースが新設されるのを知り、「より幅広い美容の教養を身につけたい」と進路を変更し、AO入試で合格した。

大学時代はヘアメークを学び、美容技術を競う大会に出場。学内で美容サークルを立ち上げ、学園祭でファッションショーを企画する行動力を発揮した。英語や情報処理など学業にも力を注ぎ、成績優秀者に贈られる、学園創設者の名を冠した森平蔵賞を受けた。

◎　◎

「先生と学生の距離が近く、存分に学べる環境がすばらしい。自分の視野も大きく広がりました」と大学の魅力を語る。大学4年次には念願だった美容師の国家試験にも合格したが、「美容業界を変えたい」という新たな夢が芽生え、大学院進学を決めた。

現在、大学の客員研究員として実験やデータ分析に多忙な日々を送る。今年5月に開かれた日本薬剤学会でも最新の共同研究の成果を発表した。「高齢者や病気の方が化粧をすると脳を刺激して元気になる。化粧の力が人間に及ぼすさまざまな効果を追究していきたい」と岡坂さん。日本と中国を行き来する研究生活は当分、続きそうだ。

大阪樟蔭女子大学の卒業式に臨んだ岡坂真奈さん